

# 行財政改革市民会議(平成21年度第3回) 会議録

日時：平成22年3月18日(水)  
午後7時～8時55分  
場所：全員協議会室

## 出欠状況

委員長	副委員長				
長 島	新 井	朝 倉	内 田	小 森	笹 森
欠	○	欠	○	欠	欠
関 根	長	花 谷	柳 下	吉 田	
欠	○	欠	○	○	
その他の出席者		なし			
事務局(政策財務課)		課長、古屋、中島			
傍聴者		1名			

内 容
<p>1 開 会 政策財務課長</p> <p>2 あいさつ 委員長欠席のため、副委員長があいさつ</p> <p>3 議 事 (1) 事業仕分け結果について ・資料に基づき、事務局より説明</p> <p>○質疑</p> <p>委 員：市内循環バスは、民間バスが走っていない地域で、民間バスより安い料金で運行しており、二重の便益を受けているように感じる。せめてバス料金を民間バス会社並みにしてよいと考えるが、仕分け結果を踏まえ、最終的にどうなったか。</p> <p>事務局：市内循環バスは、市役所と市内公共施設の間の移動手段であり、利益の追求が目的ではないが、バス料金の値上げは行っている。しかしながら、収支が合うまでには至っていない。今後、特別乗車証については見直しを検討する。</p> <p>委 員：黒字化を目指すことはないが、バス料金は民間並みでよいのではないか。</p> <p>委 員：南畑地域から駅まで行く場合、市役所で乗り換えるため、340円かかる。 (→後日調べたところ、市役所から他路線への乗り継ぎは1回まで可能であるため、この場合は、1回分の料金170円の負担でよい)。</p> <p>委 員：しののめの里入口にバス停を作りたいという話があるが、南畑地域は乗客が少ない。</p> <p>委 員：福祉タクシーと老人入浴料の見直しは、削減しても問題ないという認識があつてのことか。</p>

事務局：他自治体の交付枚数を参考に見直しをした。特に、福祉タクシーについては、人工透析者に対する交付枚数を削減したものであるが、他自治体と比較して枚数が突出しており、最近では病院でも送迎しているため、削減した。

委員：集団資源回収実施団体奨励の最終的な結果はどうなったか。

事務局：仕分け結果では「不要」だったが、集団資源回収で集めたごみを、仮に市が直接収集した場合のコストを計算したところ、集団資源回収の方が経費を安く抑えられるため、最終的に廃止とはしなかった。

委員：集団資源回収は、PTAや町会など公益的な団体が資金集めをかねてやっている。

委員：仕分け当日の担当職員の説明により、結果に違いが出たものもあるのではないかと。

事務局：仕分けを通して、説明の重要性を認識できた。

委員：仕分けでは、事業の成果がポイントとなっていたが、公民館事業のようにすぐには成果が出ないものもある。

## (2) 平成21年度行革中間実績について

- ・資料に基づき、事務局より説明

### ○質疑

委員：補助金の見直しについて、国や県の補助金と併せて市も補助金を交付している場合があるが、その見直しは難しいのではないかと。

事務局：市単独の補助金が対象になると考えている。

委員：補助金は、公共的なものに交付する場合と、育成するために交付する場合があると思う。育成するための補助金は、交付する年限を最初から定めておけばよい。

委員：地域活性化プロジェクトに関連して、職員がいろいろ提案していくのが大切である。できるだけそういう機会を作って欲しい。

## (3) 広報モニタリング結果の反映状況について

- ・資料に基づき、事務局より説明

### ○質疑

委員：広報の印刷業務は、随意契約ではなく競争入札にしたのか。

事務局：22年度から競争入札とした。

委員：広報ふじみは、表紙と裏表紙だけカラーにしてはどうか。

委員：文章を書くのは難しいが、現在の広報は、すっきりして、まとまってきていると思う。

委員：文字が小さいと高齢者は読む気がしないので、関連する記事だけでも大きくして欲しい。

委員：22年2月号表紙の成人式の写真は、カラーの方がよいと思う。白黒写真のほうが腕を見せやすいが、毎月でなくてもいいので、写真によってはカラーにしてもよいのではないかと。

広報ふじみよりも、地域のことが書いてある公民館だよりの方が読まれているのではないかと。

委員：公民館だよりは、予算も限られており、編集作業も結構大変である。公民館のお

知らせを掲載するだけなら編集委員は必要ないが、地域に根ざした記事を載せている。

委員：昔は、個人の出生、結婚、死亡などの記事も掲載していた。

委員：個人情報保護に関して市民から意見等は寄せられているか。

事務局：特に聞いていない。水谷東地域で行っている災害時の要援護者名簿の作成について、個人情報保護の観点から、希望した人のみ掲載する方式を採っている。

委員：災害時の要援護者名簿は、民生委員・児童委員協議会内部では共有しているが、本人に確認した上でないと、他機関との共有はできない。

#### (4) 平成22年度予算について

・資料に基づき、事務局より説明

##### ○質疑

委員：地方債残高が減ってきたのはよいことである。個人向けの公募債はあるのか。

事務局：制度としてはあるが、本市にはない。必要とする金額を調達できる見込みがないと、個人向けの公募債を実施するのは難しい。

委員：それほど大規模なものではなく、フェンスや瓦など一部分でもよい。

事務局：個人向け公募債と同じような制度として、寄附制度がある。

委員：市民も支出することで愛着が湧くと思うので、そのような制度があるとよい。

委員：この不況では、寄附は難しいのではないか。

委員：地方債残高は、一般会計予算の規模と同程度あるが、今後の見込みはどうか。

事務局：これまでは施設を建設するための借金だったが、今後は修繕をするための借金になると思われる。また、現在は、地方交付税の不足分を補う臨時財政対策債が増えている。

今後においては、寄附制度の活用や、小さい歳入を積み上げていけば、相当程度の歳入確保ができると考える。極力借金をしないでやっていく。

委員：地方債残高が年々減少しているが、22年度は減少するペースが落ちている。

委員：予算を削減して住民サービスが低下するようでは困る、財源確保をもっと考えるべきという意見が基本構想の地域別懇談会で出ていたが、特別チームを組んで、財源確保策を考えるべきである。

事務局：一例としては、旧有料道路など幹線道路沿いの活用による歳入確保が考えられる。

委員：職員が減った結果、サービスが低下するようでは問題である。

事務局：職員減へ対応するため、民間委託の推進により、サービスの維持・向上とコスト削減を図りたい。

委員：地域包括支援センターのことについて、「地域包括支援センターむさしの」に出前講座を依頼したところ、懇切丁寧に教えてくれた。「むさしの」は、地域の行事に参加するなど、民間に任せられることは民間に任せるのもよいと思った。

委員：「むさしの」には誠意が感じられる。

委員：事業仕分けでは、生活道路事業は予算が少ないと言われていた。

事務局：今年度、国の臨時交付金を使って、道路修繕を行ったが、まだ十分とは言えない。

#### (5) 意見交換

委員：職員を削減しすぎると、職員のやる気が落ちるのではないか。

事務局：県の許可権限の一部について、希望する市町村への移譲が進められているが、取扱い件数が少ない事務が多く、富士見市では、職員削減に対応するためにも、広く市民に関係のある権限のみ受けてきたため、移譲率は県内でも最下位に近い。

委員：数年に1回しかない事務だとしても、墓地の経営許可など重要な権限はある。

委員：相続等の理由により耕作が放棄された農地は、防災や防犯面で問題があるため、私有地であるとはいえ、市から強く督促する、条例を制定して市で草刈りできるようにする、雑種地にして税金を上げるなどの対応をすべきである。

委員：農地として機能していない土地に対しては、農地外の評価を行うべきである。

#### (6) その他

事務局：22年度は、行財政改革の新しい方針を作るにあたり、ご意見をいただきたいと考えており、3～4回の会議を予定している。

### 4 閉 会